

# 国際子ども権利センター（C-Rightsシーライツ）

## 子どもと若者のセーフガーディング指針

### 目的

国際子ども権利センター（以下シーライツ）は、2009年にチャイルド・プロテクション・ポリシーを策定し、当ポリシーに書かれた行動規範を守る誓約書をスタッフやボランティアに署名してもらってきました。この度、子どもや若者にとって安全・安心の事業実施だけでなく、包括的に子どもの安全を守る組織をつくり、子どもや若者がシーライツの活動において有害行為を受けることを防ぐために指針をつくりました。有害行為は以下によって起こされるものを含みます

- ・ シーライツのスタッフもしくは関係者の行動
- ・ シーライツのプログラムや活動の形成および実施

この指針には、以下の内容が含まれ、セーフガーディングに関するシーライツの責務、スタッフや関係者の責任を明記します。

1. 言動や振る舞いに関するルール、行動規範
2. 安全な活動のための計画や体制
3. リスク分析・リスク軽減
4. スタッフの採用・人選手続き
5. 人材育成、研修
6. 情報伝達、ガイドライン
7. 幹部や管理職の責任
8. 懸念事項についての報告相談と対応

### セーフガーディングとは何か

セーフガーディングとは、組織の役職員や関係者によって、また事業活動において、子どもや若者にいかなる危害も及ぼさないよう、つまり虐待・搾取や危険のリスクにさらすことのないよう努めることであり、万一、活動を通じて子どもや若者の安全にかかわる懸念が生じたときには、しかるべき担当者や機関に報告を行い、それを組織の責任として取り組むことを意味します。

セーフガーディングに関するより詳しい定義は、本文書内の「用語と定義」を参照してください。

### 適用範囲

シーライツに雇用される全スタッフ

シーライツと業務で連携または依頼する関係者：ボランティア、市民団体や自治体などワークショップ依頼者、報道関係者等を含むプログラム取材者、見学者など

### 方針

シーライツは私たちが接するすべての人が、年齢やジェンダー認識、障がいの有無、性的指向、民族に関係なく、あらゆる有害行為、虐待、ネグレクト、搾取、暴力、差別から守られる権利を持つと考えています。シーライツは、スタッフもしくは関係者による虐待や搾取を許しません。

この指針は、子どもと若者に対する性的搾取および虐待からの保護(Protection against sexual exploitation and abuse, PSEA)を含みますが、この他にも個別の指針や手続きが必要とされる場合があります(「関連する方針」参照)。

シーライツは活動のすべての過程において、予防(prevention)、通報(reporting)、対応(response)の3つの柱を用いてセーフガーディングに取り組めます。

## 予防と行動規範

シーライツは、以下を行う責任があります。

すべてのスタッフ、および、子どもや若者と直接かかわるボランティアがこの指針の内容を理解し、自分たちの責任を知っている状況をつくれます

シーライツのすべてのプログラムと活動は、活動が子どもや若者に与えるあらゆる有害行為のリスクを回避する方法で計画し、実施します。これには、プログラムにおける個人情報の収集および公開を含みます。

スタッフおよび関係者の採用、管理、派遣の際には、厳重なセーフガーディング手続きを行います

スタッフが組織内における各自の役割に応じたレベルのセーフガーディング研修を受けるようにします

セーフガーディングの懸念に関する相談や通報に対して、予め定められた手続きに沿って迅速かつ適切に調査や再発防止に努めます

## スタッフ・役員・インターン・ボランティアの責任

### 子どもと若者のセーフガーディング

シーライツのスタッフおよび関係者は、行動規範を守り、特に以下を行ってはならない。

- 18歳未満と性的関係を持つ
- 子どもに対する性的虐待および搾取
- 子ども・若者に対する身体的虐待、モラルハラスメントや心理的虐待、ネグレクト
- 児童労働や人身売買を含む子どもや若者を利用する活動を行う

さらに、シーライツのスタッフおよび関係者は、以下の義務を負う。

- セーフガーディング違反を予防し、セーフガーディング指針を遵守する環境をつくとともに、その環境を維持する
- シーライツのスタッフまたは関係者によるセーフガーディング違反に関するあらゆる懸念や疑いは担当スタッフに相談・通報する

## リスク分析

活動を計画する際には子どもの危険を脅かすリスクについて分析する。

## スタッフ採用

スタッフを採用・人選する際には、チャイルドセーフガーディングの観点を取り入れる。

## 相談・通報を促進および通報者の保護

シーライツは、セーフガーディング懸念を相談・通報するための、安全かつ適切で、スタッフおよび活動対象の人々にアクセス可能な手段を確保する。

正式な内部通報手段を用いて(またはそれを要請して)懸念または苦情を相談・通報したスタッフを、シーライツの「職場における不正の通報(内部通報)方針」で保護する。

シーライツは、一般参加者やパートナー団体、公的機関など外部からの相談・通報・苦情も受け付ける。

## セーフガーディング懸念を相談・通報する方法

セーフガーディングに関する懸念があるスタッフは、セーフガーディング担当理事または上長に迅速に相談・通報を行う。もしセーフガーディング担当理事または上長に相談・通報することに不安を感じた場合は(相談・通報が真剣に扱われないと感じたり、その人が事案に関わっている可能性があるなど)、代表理事に伝えても良い。

## 対応

シーライツは、各種指針と手続き、法律や条例に沿って(「関連する方針」の「セーフガーディング懸念事項の通報および対応手続き」参照)、セーフガーディングに関する通報と懸念に対する事実調査を行い、必要に応じて人事処遇や再発防止に努める。

シーライツは、指針に違反したことが判明したスタッフに対して、適切な人事処遇を判断する。

シーライツは、スタッフまたは関係者による有害行為を受けた被害を受けた当事者に対する支援を行う。支援に関する意思決定は、サバイバーの意見を尊重し、被害を受けた当事者の利益を最優先する。

## 守秘義務

セーフガーディング懸念を扱うすべての過程において、守秘義務が維持されることは必須である。懸念に関する情報およびその後のケースマネジメントは、知る必要がある人にものみ共有され、情報は常に保護されるべきである。

## 関連する文書

### 行動規範

### セクシュアル・ハラスメント禁止方針

### 職場における不正の通報（内部通報）方針

### セーフガーディング懸念事項の通報および対応手続き

### スタッフ採用におけるセーフガーディング手続き

### その他、適切と思われる方針

## 用語と定義

シーライツのプログラムで物資やサービスを直接受ける人。なお、不適切な力の行使は、NGOが支援するより広範な住民にも適用され、優位なポジションにあると認識させることによる搾取も含まれる

## 子ども

### 18歳未満の人

## 若者

### 15歳から24歳までの人

## 有害行為

心理的、身体的、その他あらゆる形での個人の権利の侵害

## 性的搾取および虐待からの保護（PSEA）

この言葉は、人道支援および開発支援の業界では、スタッフや関係者による性的搾取や虐待から被災者を保護することを指す。これは、「性的搾取と性的虐待からの保護を図る特別措置に関する国連事務総長公示」(ST/SGB/2003/13)に基づく。

## セーフガーディング

セーフガーディングとは、組織の役職員や関係者によって、また事業活動において、子どもにいかなる危害も及ぼさないよう、つまり虐待・搾取や危険のリスクにさらすことのないよう努めることであり、万一、活動を通じて子どもの安全にかかわる懸念が生じたときには、しかるべき責任機関に報告を行い、それを組織の責任として取り組むことを意味する。

この定義は、私たちの価値感と理念に基づき、私たちの組織文化を形づくるものである。これは、特に性的な目的のために力や信頼を濫用し、脆弱性につけこんだ有害行為を予防し、対応することを意図している。

セーフガーディングは、私たちのプログラム、関係機関、スタッフに、継続的にかつ例外なく適用される。つまり、有害行為や搾取、虐待のすべてのリスクを積極的に特定し、予防し、注視する必要がある。また、リスクが発生した際の通報・対応・再発防止のための責任ある、透明性の高い制度を持つ必要がある。これらの制度はサバイバー中心であり、かつ、疑念を向けられた人物に対しても人権に配慮した事実調査や処遇がなされなくてはならない。

セーフガーディングは、受益者と被災者を私たちが行うすべての中心に置くものである。

## 身体的虐待

おとなか子どもかに関わらず、誰かの身体を実際に傷つけること、もしくは身体を傷つける可能性のある行為を行うこと。叩く、揺さぶる、有毒物を与える、溺れさせる、火傷させるなどが含まれます。また、親や保育者などが虚偽の傷や症状をつくりあげることや、故意に子どもを病気にすることも含まれる。

## 性的虐待

子どもが理解していなかったり同意せざるを得ない状況で、無理やり、もしくは、そそのかして子どもに性的行為をする、またはさせること。レイプ、オーラルセックス、マスターベーションやキス、押し付け、触るといった性器の挿入を伴わない行為なども含まれ、またこの限りでもない。さらに、性的なものを見せる、子どもを使って性的な写真や画像を作成する、性的に不適切な態度を子どもにさせることも含まれる。

## 性的搾取

お金、贈物、食料、住居、みせかけの愛情、社会的地位など、子どもやその家族が必要なものと引き換えに、子どもに性的な行為をさせること。多くは、子どもと親しくなる、信頼を得る、ドラッグやアルコールを与えるなどして、巧みに子どもを操り強要することで行われる。両者の間には、同意があったと主

張されることがあるが、力関係が不均衡である場合には、被害者側には限られた選択肢しか与えられていないため、同意があったとはみなされない。

#### ネグレクト・養育怠慢

子どもの身体的・精神的・道徳的発達に悪影響を及ぼしかねないほど、継続して子どもの基本的な要求を満たさないこと。子どもを適切に養育・監督せず危険から守らないこと、栄養のある十分な食事を与えないこと、安全に暮らしたり働く環境を提供しないこと、妊娠中の母親が薬品やアルコールを不適切に服用することやそれを容認すること、障害のある子どもの世話を行わなかったり不適切に扱ったりすることなども含まれる。

#### 心理的虐待

子どもの心理発達に影響を及ぼすほど、継続して心理的に不当に扱うこと。行動を制限する、貶める、辱める、いじめる（オンライン上のいじめも含む）、脅す、怖がらせる、差別する、ばかにすることなどが含まれる。